

JHF REPORT



パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 九十九里2019より。0cmを狙う伊藤まり子選手。(P10-11の報告をご覧ください。)

「自由な飛行」の環境を次代に引き継ぐ

新しい年が始まり、春の息吹が聴こえできます。寒さをものともせずに飛び続けている方も、雪深いエリアでのフライト再開を待ち望んでいる方も、すべてのフライヤーにとって2020年が実り多い年になるよう祈ります。

2019年は世界選手権イヤーでした。イタリアでのハンググライディングクラス1、北マケドニアでのパラグライディング、そしてセルビア共和国でのパラグライディングアキュラシー、各

世界選手権で日本チームは大健闘。パラグライディングでは国別3位に入り、銅メダルを獲得しました。

また、2018年アジア競技大会のパラグライディングクロスカントリー競技で金メダルを勝ち取った日本男子チームに、文部科学省・スポーツ庁から大臣顕彰・表彰を受けました。

日本選手が活躍する嬉しい知らせの一方で、2019年も重大事故が続いてしまいました。

安全でなければ楽しいフライトはありません。先達が拓いた「自由な飛行」の環境を守るために、この環境を次代のフライヤーに引き継ぐために、フライトの準備からランディング、機材片付けまで、丁寧に、大切に行っていきましょう。

JHFは安全性向上のため様々な活動を行ってきました。2020年もフライヤーひとりひとりが空を心から楽しめるようサポートしていきます。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

安全に楽しくフライトできる環境を守りたい。

JHF常設委員会の次期委員を募集●あなたの力を貸してください

JHFには八つの常設委員会があり、委員たちはハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会の委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、2020年度・2021年度の2年間を任期とする委員を募集します。

何よりも楽しく飛び続けたい、大切な空の仲間のために何かしたいと思っているあなた、ぜひ立候補してください。各委員会の一員としてJHFの活動に力を貸してくださるようお願いします。

以下、各委員長からのメッセージです。委員経験者の方はもちろん、連盟活動は未経験という方もぜひ手を挙げてください。

ハンググライディング競技委員会

当委員会はハンググライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に日本国内における大会の公認・管理・支援、ならびに国際大会に出場する日本チームメンバーの選考を行っています。

また、毎年改訂される国際ルールであるスポーティングコードS7に合わせながら、国内競技ルールの改定・作成を行っています。

ハングシリーズの参加者が100人を切った2008年以降、シリーズ参加者は80人程。大会もピーク時の年7~8開催が現在は5大会と減っている。

競技者の増加・育成が思うように進まない一方で、世界選手権での国別順位や個人の世界ランキングは年々上がり、確実にレベルアップし競技の開催や技術向上に貢献をしてきた。

競技や記録を通じてレベルアップや仲間を増やしたいなど情熱のある方の参加をお待ちしています。

パラグライディング競技委員会

当委員会はパラグライディング競技全般に関する事柄を扱っています。メインでカバーしているのは、Jリーグ、J2リーグ、アキュラシー、クロスカントリーです。

パラグライディングをプロモートする2本柱は、安全と競技であると思います。安全はもっとも重要ですが、影の力と言えます。一方、競技は目に見える力です。2018年のアジア競技大会のような一般に広く知られている大会に参加し、メダルを取ってくることで社会一般にこのスポーツを認知してもらうことができます。

いかに日本のレベルを上げ、なおかつ競技人口を増やしていくのかがメインの課題です。そのために意見を発するだけではなく、実働する委員を募ります。



2019年PG世界選手権(XC)で日本チームは銅メダル獲得。

教員・スクール事業委員会

2019年度は上級タンデム技能証の新設という大事業に着手し、各地で検定会を重ねてタンデム飛行の安全性と確実性の向上に努めてきました。2020年2月には、新たに教員になる方の集合研修・学科検定と、3年に一度の教員検定員研修検定会を開催します。また、パラグライディング・ハンググライディングともに新しい教本を発行します。



朝霧での上級タンデム技能証検定会、学科講習。

4月からの新年度は、引き続き上級タンデムの普及を進めるとともに、教員のための研究会や交流会も計画しています。制度を厳しくするだけでなく、安全の担い手である教員同士が集まり、楽しみながら切磋琢磨する機会を作ろうと考えています。

自由に飛べる環境を守るという気概を持ち、行動力のある方、当委員会に加わり力を発揮してください。

補助動力委員会

滑空機の団体、JHFの中で、唯一動力に関する委員会です。まだまだ開拓発展する伸びしろのある委員会でもあるし、委員ひとり一人の考えがすぐに行動に移せる柔軟な委員会でもあります。

動力に関する機材の扱い方から安全基準、操作方法、大会やイベント、安全講習、そして事故などの素早い対応・対策・報告がこの委員会の主な仕事です。

滑空機に使われるすべての補助動力に関する仕事に、あなたもチャレンジしてみてはいかがですか。スカイスポーツを愛する会員の皆さんに、少しでも楽しく・安全に・そして未来へつながるJHFの力の一人になっていただきたいと考えています。若い力を募集いたします。

制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFが法律や定款に抵触しないよう留意し、活動を行っています。

[活動の概要]

- 理事会の諮問に応じて規程、規約等の案、または改正案を作成する。
- すべての委員会と連携を取り、新たな制度案や規程案、また規程の見直しを理事会に提言する。

[制度委員会に向いている方]

- ・パラ、ハングで空を飛ぶことが大好きな方
- ・文章を細かいところまで読み込み文章作成が得意な方
- ・パソコンメール、スカイプなどで会議ができる方

ぜひ、委員にご応募ください。

安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に、安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、使用機材の技術的な審査、情報収集・分析を行い、また、事故の調査、情報収集、分析を行い、そのほか、安全性にかかわる事案の分析・情報発信を行っています。

これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集します。

ハングパラ振興委員会

当委員会は「今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り」を主要なテーマとして掲げ、以下のような活動に取り組んできました。飛ぶ仲間を増やし連携を広げ、多くの方が永く続けることができる環境作りに関心をお持ちの方を広く募ります。

- ・フライト活動を止めた方、長期休眠から復帰された方の状況調査と分析
- ・体験会等イベントへの協力
- ・安全確保に関する議論、関連委員会との連携

→ 体験会の実施ガイドラインは安全性委員会で検討継続となった

・外部組織との連携：VR体験に際して大学研究室との協力体制維持

→ リスクの少ない体験会実施方法としての可能性

・JHFホームページ上の「フライヤーズボイス」定期更新体制の維持

・フライヤー会員への情報提供：JHFレポートやweb等活用の準備

・パンフレット「ご家族の皆様へ」(仮称)の継続的な更新

・メディアへの情報提供

・教本改訂への協力

です。広く人脈を持ち公正な判断ができる方を求めます。

応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール（ファイル添付）、ファックス、郵便などでお送りください。応募用紙は、JHFウェブサイトのTOPICS、『JHF委員会委員を募集します【1月10日】』からダウンロードしてください（ワードファイル）。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

□応募締切日：2020年3月4日（水）

□選任：理事会で選任を決定

□任期：2020年4月1日～2021年3月31日

□定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他は5名

□その他：委員会活動には交通費（実費）と日当（5,000円）等を支給
不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。

TEL.03-5834-2889

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

JHFの動き

スカイスポーツシンポジウムで岡芳樹さんが特別講演

第25回スカイスポーツシンポジウム（主催：日本航空宇宙学会、日本航空協会）が11月30日（土）、12月1日（日）に東京都立産業技術高等専門学校（荒川キャンパス）にて開催されました。このシンポジウムはJHFが協賛しており、実行委員として参加しています。

今回はアジア競技大会で監督を務められた岡芳樹さんから「パラグライダーをオリンピックに」と題する特別講演がありました。

毎回、シンポジウムには自作滑空機作りに携わる人も多く参加しており、



岡さん熱弁中。演台にはアジア競技大会で獲得した金・銀メダルが。（写真：日本航空協会提供）

第1回鳥人間コンテストの優勝者でもある岡さんの講演に、熱心に耳を傾けていました。

教員技能証を目指す方のための集合研修・学科検定会を実施

ハンググライディング／パラグライディングの教員技能証取得を目指す方のための集合研修・学科検定会を、2月14日（金）～16日（日）にJHF事務局で開催する予定です（参加の申し込みは締め切りました）。

JHFでは2017年度より教員技能証の学科検定を実技検定とは別に行っています。今回も、全国の教員のレベルを一定に保ち、教員に必要な知識や技術、心構えを学ぶこと、教員同士の横のつながりを持っていただくことを目的に、集合研修・学科検定を行います。

教員検定員研修検定会を静岡県朝霧高原で開催

現在、教員・助教員の検定を担う教員検定員は全国で23名。この方々の任

期が今年3月末で満了となるため、2020年度から3年間の新任期に向けて、2月18日（火）～20日（木）、静岡県富士宮市のスカイ朝霧を会場に、教員検定員研修検定会を実施の予定です。

教員検定員の大きな役割は……

□全国各地で教員検定・助教員検定が受検できる環境づくり

□全国各地で開催される教員、助教員の更新講習会、安全セミナーの講師を行う

□安全性委員会の事故調査員として事故調査を行う

2020年度からの教員検定員は次号でお知らせします。

好評2020年JHFカレンダーまだ間に合います

JHFでは、フォトコンテストの入選作をはじめ季節感あふれる写真を選んでカレンダーにしています。2020年版も大好評。まだ間に合いますので、買い忘れたという方はJHF登録スクールまたはJHF事務局まで。

ハングは私の一生そのもの。

FAIエア・スポーツ・メダル受賞、朝日和博さんに聞く

2019年、国際航空連盟（FAI）のエア・スポーツ・メダルを、長くJHF理事として活躍した朝日和博さんが受賞した。

このFAI賞（メダル・ディプロマ）は、「航空スポーツに関連したFAI委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な貢献があった個人または団体」に贈られるもの。

朝日さんは、1949年、秋田県に生まれた。1970年代の前半にハンググライダーの存在を知り、自作機に挑戦。その後、市販機で初滑空、空を飛ぶことに魅了された。秋田県寒風山を拠点にフライトを重ね、1977年、車山高原での日本選手権でクラス1優勝、日本チャンピオンとなる。自身が楽しむだけでなく、フライヤーのための組織立ち上げに参加し、JHFの基礎となる「自由な飛行」の環境を作ることに尽力。JHFの発足以来、2005年に任期満了で退任するまで、理事、常任理事、副会長、会長を務めた。

まさに日本のハンググライディングとともに歩み続けてきた朝日さんに、その来し方をうかがった。

■そもそも、朝日さんがハンググライディングを始められたきっかけは何だったのでしょうか。

朝日：雑誌で見た1枚の写真です。私は20代で、スキーやジムカーナ、スキーバイキング、いろいろやって

いたんですが、空が残っていたんです。ラジコン飛行機はやりましたけれど、自分が飛んだことはなかった。当時、アメリカ西海岸あたりで飛ばれていたハンググライダーの写真を雑誌で見て、仲間と「これならできるか」と機体を作ることにしました。

といっても設計図があるわけでなし、写真に写ったパイロットの身長から翼の大きさを「このぐらいかな」と割り出して、竹と布で作りました。形にはなったんですが、とにかく重くて飛ぶどころではない。それで、次は竹の代わりにアルミパイプを使うことにしました。ところが強度が足らず、ふわっと浮いたんですが、壊れてしまいました。仲間とああでもない、こうでもないと、2~3年試行錯誤を繰り返しているうちに、国産メーカーがハンググライダーを売り出して、「やっぱり買おう！」ということになりました。

■いきなり自作とは大胆でしたね。

朝日：実は、空を飛びたいなあと思って、大学に入ったときグライダー部に入部したんです。ところが、その少し前に部のグライダーが壊れてしまって、修理代を稼ぐためにアルバイトばかり。それで退部してしまいました。あのときグライダーが健在だったなら、ハンググライダーとの出会いはなかったかもしれませんね。

FAIが国際ハンググライディング委員会（CIVL）の設置を承認した1975年、日本では国産メーカーによる量産タイプ機が発売され、各地で講習会が開かれ、初の競技会が開催された。朝日さんと仲間たちはフライトに熱中し飛行技術を身につけていった。

■飛び始めた頃の楽しさ、皆さんの興奮ぶりが目に浮かびます。

朝日：もう夢中になりました。飛ぶことがいつも頭から離れない。エリア以外の場所でも風の向きや強さをチェックして、いつもイメージフライトをしていましたね。

仲間たちとわいわいやりながら練習をして、1977年の日本選手権で優勝できたことは本当に嬉しく、強く印象に残っています。

寒風山で初めてソアリングしたときの感動も忘れられません。こう思い出すると、いろいろな場面がよみがえってきて……楽しかったですね。

仕事以外では、ハングは私の人生そのものです。

朝日さんがフライトを始めた頃、日本航空協会が中心となって諸官庁と話し合い、法律で規制するのではなく、ハンググライダーは統括団体の自主規制・管理の下で飛行活動を行うという申し合わせができた。当時のパイロットたちはこれを受け、会員登録制度と



朝日和博
ASAHI Kazuhiro

1949年、秋田県に生まれる。雑誌で見た1枚の写真をきっかけにハンググライディングに熱中。1977年ハンググライディング日本選手権者（当時のクラス1）。フライヤー組織の土台作りにも力を注ぎ、JHFが発足して以来、理事として活躍。1983年副会長、1984年～1990年理事、1991年～1994年副会長、1995年～2000年常任理事、2001年～2005年会長。



自由な飛行を楽しめる環境を次代に引き継いでいきたい。（2019年ハンググライディングクラス1世界選手権より）



空の仲間との時間はかけがえのないもの。(2019年ハングライディングクラス1世界選手権より)

技能認定制度の実施に積極的に協力。1982年に発足した日本ハングライディング連盟（当時の名称）は組織の基礎を堅固なものにし、1995年、文部大臣より社団法人の認可を受けた。

■フライトだけでなくフライヤー組織を作ること、その運営にも長く携わってこられました。

朝日：なんとか「自由な飛行」を続けたい、後から来る人たちのためにもこの環境を守りたいという想いで、やってきました。

組織に関して、私にとって一番のできごとは、JHFの社団化です。社団法人になることで、フライヤーの社会的立場を確立したい、ハングライディング・パラグライディングをなんとか社会に定着させたいという想いででした。

「空を飛ぶ危ないもの」ではなく、空のスポーツとして社会に認めてもらうため、日本航空協会スポーツ航空室長の後にJHF会長を務められた渡邊敏



空のスポーツとして社会に認知されることには大きな価値がある。(2019年パラグライディング世界選手権より)

久さんを中心に、みんなで徹夜して話し合いました。1995年に「社団法人日本ハングライディング連盟」が誕生したことは、このスポーツにとって大きな区切り、ターニングポイントだったと思います。

僧侶の父が1977年に他界、会社員生活を続けるか、寺を継ぐか10年ほど悩んだ末に僧侶となった朝日さん。後継者を育て、日々の勤めに文字通り走り回っている。

現在はフライトを卒業したが、その眼差しが、かつて夢中になって飛んだ空から離れることはない。

■長くハングライディングの発展に

力を尽してこられ、FAIエア・スポーツ・メダルを受賞されました。

朝日：受賞は思いもよらぬ名誉で、とても嬉しいです。一生の思い出になります。振り返ってみれば、好きなことをやって、悔いのない人生でした。

■最後に、フライヤーにとって大切なことは何でしょうか。

朝日：最も大切なことは、安全に空を楽しむこと。そして、第三者に迷惑をかけないこと。これに尽きます。仲間とともに、大事に大事に飛んでいただきたいと思います。

皆さん自身が長く飛び続けていくよう、未来の人のためにも「自由な飛行」の環境を守っていってください。

県連だより

■阿蘇ジオパークカップ2019HG大会 大分県ハング・パラグライディング連盟

2019年11月16日（土）・17日（日）の2日間、阿蘇外輪山で初めてのハングライダー大会を行いました。エリアは、外輪山の東端にある「卯の鼻」と大観望の東隣にある「扇谷」で、両エリアを使うことによって南・西・北西の向きでフライトできます。

大会には、広島・山口・福岡・宮崎・大分から18名の馴染みのフライヤーがエントリー。レースは自己申告制によるサーキットパイロンで行いました。両日ともに快晴で、16日は西の風で卯の鼻から、17日は南の風で扇谷からティクオフし、選手は雄大な阿蘇カルデラの眺望を楽しみながら事故なくフラ

イトしました。

大会のサポートについては、学生フライヤー連盟九州支部から4名の学生スタッフと、ZU伐株から6名のフライヤーの支援を受けて、初の大会としてはスムーズに、また交歓会も和やかに行うことができました。ここにサポートしていただいたメンバーに改めて感謝します。

大会の今後について、全国的にフライヤーが減少していくなかで、この素晴らしいスカイスポーツを多くの人に知ってもらい、また、わずかでもフライヤーを増やすことを目標に、継続していきたいと考えています。皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いします。



扇谷エリアのランディング場で、表彰式を終えて。

[大会結果]

優勝 中川 大志（広島スカイラブ）
準優勝 吉田 佳充（都城ハングライダークラブ）

準優勝 嶋山 和弘（広島スカイラブ）

なお、卯の鼻、扇谷エリアの詳細はJHFウェブサイトでご覧ください。

報告：高宮末吉
(阿蘇ラピュタスカイスポーツ)

空中衝突を防ぐ

JHF安全性委員会 委員長 竹村 治雄

新しい年を迎えました。日頃の安全性委員会の活動へのご理解、ご協力に感謝いたします。また、今年も事故報告やインシデント情報の収集等へのご協力をよろしくお願いします。

空中衝突を防ぐため 常に状況を正しく把握する

昨年秋、空中衝突による重大事故が発生しました。空中衝突すると、自分も相手も命の危険にさらされ、絶対に避けなければならない事故の一つです。JHFのウェブサイトでも、空中衝突を防ぐための対策やヒントを掲示していますので、今一度確認をお願いします。

空中衝突の回避には、トラフィックルールに従ったフライトをすることは当然ですが、それ以外にも多くの配慮すべき事項があります。その中でも最も重要なことは「ここで避けなければ衝突する」という状態にならないようにすることです。言い換えれば、常に自分の周りのグライダーの状態を把握して、衝突の危険を事前に予測し、早めに危険なコースを避けて、衝突する可能性を最小限にすることが大切です。

以下に空中衝突を防ぐための方法を抜粋します、詳細はJHFのウェブサイトを参照してください。

■周囲の状態を把握する

他機を警戒し自分の周りの空域の状態を常に把握する。その際自分の死角にも注意する。

(ドイツの連盟では自分の機体周辺

で警戒確認できる機体数は3機までと言われています。それ以上の機体数の場合には、より多くの注意が必要となります。)

■コミュニケーションをとる

自分の周囲のパイロットとコミュニケーションをとる(アイコンタクト、声掛け、早めの動作など)。

■常に譲り合う

パラグライダーやハンググライダーは、上昇風を利用して狭い空域で複数の機体がソアリングをすることが多く、その分、空中衝突の危険も高まります。狭い空域で、多くのパイロットが安全に飛行するためには譲り合いが欠かせません。

■常に油断しない

どのようなときも油断をしてはいけません。「相手も自分に気が付いてよけるだろう」ではなく、相手が自分に気が付いていないときはどう行動するかを考えましょう。

■正面からの機体に注意する

正面から向かってくる機体、特にハンググライダーは投影面積が小さく背景に溶け込んで気付きにくいことがあります。同時に相対速度が速く気付いた時には相手は目の前ということにならぬよう注意してください(図1)。

■トラフィックルールを理解する

- ・進路交差は右側優先
- ・向き合ったら右における
- ・追い越しは右側から
- ・他機の前に割り込み禁止
- ・低高度優先
- ・同一方向に旋回

すべてのフライヤーが、自分の置かれている状況を正しく把握して、衝突回避が必要な状況にならないように常に行動すること。

万一衝突回避が必至の状況になった場合でも、相手も気付いてお互いが衝突回避操作を行えれば理想ですが、相手が自分に気が付いていないとしても衝突回避できるよう行動することが重要です。

パラグライダーの潰れに対する 回復方法再確認のお願い

上空で片翼が潰された後、スパイクルダイブに入る事例が報告されています。いずれもパイロットが潰れやクラバットを回復させようとしている間に回転が加速しています。

翼の潰れまたは異常を感じた場合には、まず機体の状況を確認します。

もし片翼潰れが生じた場合は、まずグライダーを障害物のない方向に体重移動とカウンターブレーキで直線飛行させましょう(山際の場合には、山から離れるということです)。その後、直線飛行を維持しながら潰れやクラバットの回復動作を行います。

フロントコラップス発生時の正しい回復操作はフルグライド(バンザイ)です。

無意識のうちにブレーキを引いてしまうと、フルストールやツイストの危険性があります。ただし、回復時にパラグライダーがシューティングする場合、または潰れが回復しない場合には、ブレーキ操作で適切な操作を行う必要があります。

インシデントレポート収集に ご協力ください

安全性委員会では、インシデントレポートを収集し事故防止のための基礎資料として活用したいと考えています。

収集用のフォームへのリンクをJHFのウェブサイトに用意しましたのでご協力をお願いします。

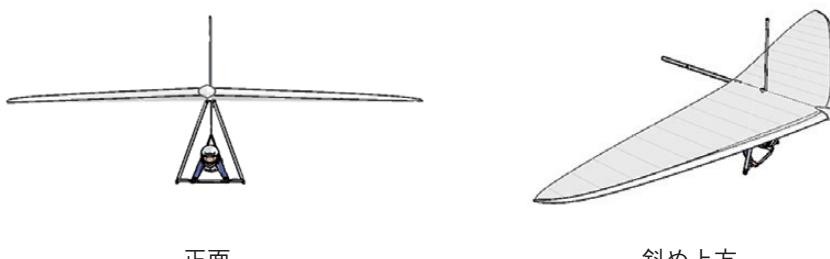


図1 他機との位置関係での見え方の違い

上級タンデム技能証検定会：2019年は102名が合格

JHF教員・スクール事業委員会 委員長 北野 正浩

2019年から開始した上級タンデム技能証検定ですが、2019年12月末の時点で、12か所で開催、102名の皆さんのが合格しました（パラグライディング94名、ハンググライディング8名）。

安全で確実なタンデムの普及を

初回は3月に静岡県朝霧エリアで教員を対象に開催し、ここで合格した皆さんのが検定員となりました。

9月には北海道と九州で開催し、その後10月から12月にかけて、石川、静岡、山形、茨城、香川、和歌山で開催しました。複数回開催したところもあります。各地での検定の水準が同じになるよう、検定会では3名以上の検定員が判定を行います。

上級タンデム制度は、安全で確実なタンデムフライトの普及を目指して作りました。検定は実技だけではなく、学科講習と学科試験もあり、全国で同じ技術と知識を身に付けていただくようになっています。有効期間は3年で、継続する場合は再び検定を受ける必要があります。

合格は検定課目を理解することから

2019年に実施した検定会では、我流のテクニックで飛んでいる方が散見されたほか、飛ぶのは上手なもの検定課目を理解していなかったり、検定ゆえに緊張して演技に失敗したりして、惜しくも不合格になった方もいました。

検定に合格するには、日頃から安全確実な模範演技ができるよう意識して飛ぶことと、検定課目をよく理解した上で練習が必要になります。受検者



タンデムフライト実技の前にソロフライト実技検定。安全確実な模範演技が求められる。



検定会で機材チェックの重要性を再確認。

パッセンジャーの命を預かる重責

未経験者にも空を飛ぶ楽しさを直接伝えられるタンデム飛行はたいへん素晴らしいものです。同時に、パッセンジャーの命を預かるという重い責任があります。安全性と確実性を高めるために、技能証制度に大きな変更を加えました。どうかご理解ください。

タンデム証移行措置は今年3月まで

2019年3月31日時点でのタンデム技能証を有していた皆さんには、1年間有効の暫定上級タンデム技能証をお送りしています。2020年3月31日までに検定を受けて合格しないと、上級ではないタンデム証になります。このタンデム証でも、同居親族とパイロット証を持つ方は同乗させることができます。また、上級タンデム証を持つ教員または助教員の監督下であれば、フライヤー登録をした練習生も乗せることができます。これで十分、という方は、必ずしも上級タンデムを受検しなくともかまいません。今後もこれ以外の方を同乗させる場合は、上級タンデム検定を受けてください。

検定会の案内はJHFウェブサイトに随時掲載しています。掲載されていない場所での検定会開催をご希望の場合は、事務局にお問い合わせください。開催に必要な条件をお伝えします。

ハング・パラを長く続けるためのアイディアを募集

JHFハングパラ振興委員会ならびに安全性委員会では、ハンググライディング、パラグライディングを安全に、楽しく長く続けるアイディアを広く募集します。

たとえば、加齢に伴う身体の衰えを防ぐための工夫（トレーニング方法など）や、ハング・パラの大学サークルに所属していて、卒業後も

フライトし続けるための工夫などを共有してください。もちろんそれ以外のアイディアも大歓迎です。

いただいたアイディアを整理して、今後の委員会活動の参考とさせていただき、JHFレポート等で紹介させていただきます。

応募の方法が決まり次第、JHFウェブサイトでお知らせします。





第6回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 最優秀賞「光の中へ」 撮影：中村正哉

パラグライディングアクュラシー日本選手権 in 九十九里2019 菊田高司、伊藤まり子、令和元年日本選手権を獲得！

11月16日・17日 千葉県山武市本須賀海水浴場 報告：大会実行委員長 山谷 武繁

2019年アクュラシー日本選手権は千葉県山武市の本須賀海水浴場で開催された。直前の台風の影響で開催が可能か心配されたが、現地は被害もなく、スカイドリームの須藤さんの協力により無事行われた。全国から25名の参加者が集まり、安定した海風の中、日本選手権として大会が成立となった。

ROUND1-4

競技初日は北西の風の中、予定どおり午前8時から順調にフライトが開始された。

ROUND1では菊田高司選手が0cmと幸先の良いスタートを切った。3cmで岡選手、伊藤選手、古田選手の世界選代表組が続いた。安定した海風のため、高記録が期待される会場で、上位陣は順調にパッドスコアを記録した。

ROUND2でも菊田選手は3cmとトップを維持。岡選手、古田選手も2cmと僅差で続いた。ROUND3でも菊田選手は2cmと好調を維持。スクラッチ2位にはここまで3cmを3回続けた伊藤選手が女子トップとして続き、岡選手が第3位となった。この時点で上位はトップから11cmの中に6人がひしめく混戦となった。

ROUND4は日没まで競技が行われ、ラウンドの途中で競技が終了し、残り



トーイングによって離陸。安定した海風の中、山谷実行委員長がダミーフライト。

は翌日に持ち越しとなった。

ROUND4

競技2日目も朝から順調に競技は進み、初日トップの菊田選手は8cmとやや崩れるが、首位を死守。第2位には1cm差で岡選手。さらに5cm差で日本選手権2連覇中の和田選手が続いた。

残り2名というところで風速が規定の6m/sを安定して超えて、ウェイティングとなった。風速は弱まることなく、規定の12時を迎えた。ダミーフライトを行うが、6m/sを超える風で

ホバリング状態。14時を過ぎてコンディションが好転しつつあり、ダミーがフライトし安全を確認、競技が開始された。

14時30分までにROUND4の残りの選手がフライトを終了しなければ、新しいラウンドは行わないという規定内に終了するため競技を進めたが、規定の時間には数十秒だけ間に合わなかった。

このため競技はROUND4の結果で終了となり、菊田選手の日本選手権初優勝が決まった。第2位は岡選手、第3位は和田選手。スクラッチ第5位と



スクラッチクラス総合入賞者。菊田選手、初の選手権。



スクラッチクラス女子入賞者。伊藤選手が連勝。



ハンディキャップクラス入賞者。



チーム戦1位～3位。大台チームが頂点に。



表彰式を終えて。前列右のお二人は日本航空協会の松崎さん、田中さん（右端）。



塚原隆信選手の着地をジャッジ。好スコアが続出し混戦状態に。

健闘した伊藤選手が女子優勝、第2位には望月選手、第3位に内田選手となつた。

アキュラシー日本選手権として今年度も成立し、スコアも好成績で終えることができました。

5ラウンドができれば、悪いスコアを消すことができ、順位も大きく変わる可能性があったが、優勝の菊田選手は安定して好成績を出し、最後まで首位を守った。世界ではさらにレベルの高い競技が行われており、XCチームのようにアキュラシーチームの今後のレベルアップを期待したい。

成績

[スクラッチクラス総合]

1位	菊田 高司	埼玉	13点
2位	岡 芳樹	東京	14点
3位	和田 浩二	静岡	19点
4位	日野 政浩	宮城	45点
5位	伊藤まり子	静岡	55点
6位	塚原 隆信	茨城	92点

[スクラッチクラス女子]

1位	伊藤まり子	静岡	55点
2位	望月 奈緒	大阪	234点
3位	内田 薫	埼玉	286点

[ハンディキャップクラス]

1位	菊田 高司	埼玉	0点
2位	岡 芳樹	東京	1点
2位	日野 政浩	宮城	1点

[チーム]

1位	大台
2位	飛魔人クラブ
3位	TEAM絆
3位	Airkassy



初日は午前8時から日没まで競技を行った。

日本選手権者から

菊田 高司

アリーグを含め初めての優勝で、令和元年の日本選手権者になれたことは光栄ながらも驚きでした。

今回の大会は九十九里で行われ、海陸風と砂浜からのトeingが特徴です。素直な浜風では機体操作が容易ですし、トeingも慣れ親しんでおり、成績は気にせずフライトを愉しむつもりでした。

当日のコンディションとしては、皆の好スコアが予想される安定した風でした。アキュラシーは、相手がどうこうと言うより、自分がミスしないことが重要です。先にリードされると、相手がミスしない限り逆転が難しくなります。

安定した風でも、風への正対度合いでフレアと共に機体が左右に流されがちです。短時間では安定して見える風向きも、時間と共に大きく変わる予報でしたので、特に気を付けました。

実際、各ラウンドでファイナルアプローチの方向が異なる状況でしたが、風にも恵まれ前後のズレに止めること



令和初の日本選手権を獲得した菊田選手と伊藤選手。

ができ、気が付くと序盤でリードすることができました。

気付かなければ良かったのですが、知ったからにはプレッシャーで二転三転と覚悟しました。しかし、強風のためそのまま競技終了となりました。

今回は気楽に臨めた結果でしたが、次はプレッシャーも愉しみたいと思います。

伊藤 まり子

どん底を味わった昨シーズンから少しづつ浮上して、今シーズンは大会毎に良い時と悪い時がくっきりと交互にあり、ちょうど良い方の順番で迎えた日本選手権でした。

サーマルのない海風&安心感のある砂浜ランディングという好条件のもと、信頼感抜群のオペレーターのおかげでトeingの不安はまったくなく、しっかりとターゲットに集中することができました。

おかげで、自分でもびっくりする程の好成績で2年連続の女子日本選手権者となることができて、とても嬉しいです。

2019年の世界選手権で体感した、独自のルーティーンを決めて集中力を高める方法を今回も実践してみて、まだ完璧ではないものの、落ち着いてしっかりと集中することができていたので、これを確実に身につけてメンタル面で1ランク上に行けるように今後も精進したいと思います。

最後になりましたが、負担の大きい砂浜でずっとがんばってくれたスタッフの皆さん、笑顔で緊張を緩めてくれた仲間達、本当にありがとうございました。とっても楽しかったです！！

(写真：高橋広一郎撮影)

写真で空の仲間を増やそう!

第6回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入賞作品発表

ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見もらうことによってこのスポーツの普及に繋げることが目的のJHFフォトコンテスト。毎年開催となり2年目、第6回を迎えた今回も「ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品」をテーマに、多くの応募をいただきました。ありがとうございます。

フォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、小林秀彰JHF副会長も加わり厳正な審査を行った結果、中村正哉さん撮影の「光の中へ」が最優秀賞に輝きました。入賞された皆さん、おめでとうございます！

最優秀賞

中村正哉「光の中へ」

撮影地：山口県高照寺エリア

●受賞者から●

山口県岩国市周東町「高照寺山スカイセーリング」の皆さんの撮影を始めて約3年にして、最優秀賞というとても嬉しい連絡が飛び込んできました。

この日は、あいにくの曇り空で日も陰り、今日は駄目かなーっと空を見ていたら、急に太陽を隠していた所の雲が薄れ、その後方に一機のハンググライダー。「頼む！あの光の中へ入ってくれ！」と祈る気持ちでファインダーを見ていたら……。後は夢中でシャッターを切っていました。

今後もメンバーの皆様のご協力を頂きつつ、いつかは自分も大空へという夢をいだき、撮影を続けて行きたいと思います。

●嘉納評●

絶妙な背景と構図、タイトルの「光の中へ」という文字通りに身体の大部分が光に溶け出しているかのような光の差し方に、カメラマンの撮影センスを感じます。見る人に、風に乗りながら太陽の暖かさを顔に感じさせるような、自然に作品の中に入していくれる写真ですね。

タイトルに工夫が欲しかったのは否めませんが、シンプルな潔さがとても

良いと思います。最優秀賞おめでとうございます。

●山本評●

まさに光の中へ入ってゆく瞬間をとらえた作品です。最初にこの作品を見た時にはきれいだな、とは感じたものの、正直、最優秀賞になるとまでは思つていませんでした。しかし最終選考に残った作品の中から一枚を選ぶ段階になってよくよく見ると、構図・露出・シャッターを切るタイミングがほとんど全て完璧に近い事に気づきました。

被写体はシルエットになっていますが、パイロットの頭周辺がちょうど光の一一番強いところに入ってゆくところで、そこから光に包まれていくような瞬間です。太陽のまわりに薄い雲があることで良い雰囲気が出ています。完全なる逆光ですが、ピントもしっかりと合っています。よく見れば見るほど、完成度の高い作品であることがわかります。ただ、題名はもう少し捻ってもよかったですように思います。

最優秀賞 中村正哉「光の中へ」



優秀賞 梅津満「360° Reframe～蓮華の絨毯」



優秀賞

梅津満「360° Reframe～蓮華の絨毯」

撮影地：福岡県糸島市

●受賞者から●

このたび優秀賞をいただき光栄です。写真は福岡市近郊の篠栗町にある糸島市で撮影しました。毎年4月頃、ランディング場周辺は一面のレンゲソウで覆われ極楽世界に舞い降りたかのような気分を味わえます。これをうまく写し撮れないかと考えたのが360度カメラでした。

360度撮影素材の編集方法はいろいろありますが、今回リトルプラネットの逆パターンのラビットホール加工を施し、曼荼羅感を演出してみました。また審査員ご推察の通り、これは動画で撮影したものと写真に起こしたもの

です。SDカード容量の節約のため動画は4Kではなく2.7Kで撮影しており、A4印刷用の写真サイズには画素数が足りず、AIを使って補間しました。

最後に、この賞を2019年に事故で亡くなった私たちの仲間に捧げたいと思います。

●嘉納評●

斬新な写真です。カメラの進化、技術の進歩は、撮影者の想像を超えて面白いものを見せてくれます。撮影者の狙い通りなのか、偶然撮れたのか、想像よりもよくできたのか、いずれにしても「おお！」と唸ってしまいます。

タイトルは「蓮華の絨毯」ですが、絨毯というよりもトンネルのようですね。季節感が満載で、奥には里山のよ

うな風景も見えます。撮影手法の新しさと、古来からの和の風景に素晴らしい調和が見て取れます。

●山本評●

今回の応募作品の中でぱっと見一番インパクトの強かった作品です。

360度カメラ撮影素材の逆リトルプラネットでの書き出しが、蓮華のトンネルの中を飛んでいるようでとても面白いです。もっと高い場所だとここまで蓮華の存在感は出なかったと思うので、とても良い瞬間を切り取っています。動画からの切り出し写真だと思いますが、360度カメラの特徴をうまく活用しています。カメラの性質上どうしても画面四隅の画質は落ちてしまいますが、360度カメラの性能はど

入選

加藤文博「Flying cosmos」

撮影地：石川県獅子吼エリア



吳本圭樹「Sunset」

撮影地：オーストラリア
ゴールデンオーシャンロード



中村凪「砂丘での特訓」

撮影地：鳥取県鳥取砂丘



中村正哉「さくらロマン」

撮影地：山口県高照寺エリア



前島聰夫「空と大地」

撮影地：茨城県足尾エリア



どんどん上がっているので、今後さらに写真としてのクオリティの高い作品が作れるようになっていくと思います。次回作も楽しみしております。

2010年からスタートしたJHFフォトコン、今回も多くの方々にご応募をいただき、177点の傑作・力作が集まりました。惜しくも選にもれてしまった作品も、それぞれにパラグライディングやハンググライディングの楽しさ・魅力を表現しており、今後がますます楽しみになってきました。

次回、第7回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストの作品応募締切は、2020年9月1日(火)の予定。募集要項はJHFウェブサイトの「トピックス」でお知らせします。フォトコン常連さんも、初挑戦の方も、

またとない瞬間を写真に切り取って、ぜひご応募ください。楽しみにお待ちしています。

JHFでは、フォトコン応募作品のなかから季節感のある優れた写真を選んで、カレンダーを作っています。春夏秋冬の自然の美しさを画面に取り入れた作品、四季の風と光を感じるような作品で、カレンダーへの採用も狙ってください。



2020年JHFカレンダーの表紙。来年版にあなたの作品を!

審査員総評

嘉納愛夏

季節感のある写真が増えてきたように感じます。が、春・夏の割合が多く、秋・冬は少ないので、がんばって撮影していただけすると嬉しいです！



新しいカメラ-360度やGoproなどの登場で表現の幅が増えました。出来上がりが偶発的なことも多いでしょう。ドローンなど時代がどんどん進歩する中、安全に気を付けて撮影していただきたいと思います。

今回になったのはタイトルの付け方です。説明的なタイトルが多い中、加藤文博さんの「flying cosmos」が際立っていました。コスモスは花と宇宙の意味があり、両方にかけたのかな？と想像でき、写真にマッチしてリカルでした。タイトルはキャプションではありません。心情や風刺が効いたものにすることによって見る人の心への響き方や奥行きに違いが出てきます。いい写真が撮れた後は、タイトルにもぜひ注力してください。

360度カメラはどこで撮っても全てが写るので、ただなんとなくどこかに付けて飛んで撮っているだけでは同じような動画・写真が量産されてしまいます。飛ぶついでに撮る、というだけではなく、応募用の写真を撮る時にはこういう作品を撮るために飛ぶ、ということも意識してもらえるとさらに良い作品が生まれると思います。

また今回は子供達が楽しんでいるようなものや犬や猫などが写っている写真が意外と少なかったので、飛んでいる人以外の被写体が写っているものでクオリティの高い作品があると入賞しやすいと思います。

小林秀彰



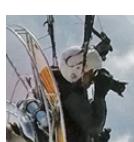
JHFフォトコンテストは2010年の第1回から6回目となります。毎回たくさんのご応募をいただき、ありがとうございます。

機材の進歩、撮影者の技術の向上が作品に反映され、素晴らしい作品ばかりで、パラ、ハングの楽しさ、素晴らしさを伝えるには申し分ありませんでした。審査を担当されたお二人も悩みに悩んでやっと7作品を選ばれました。

メールでも応募できますので、次回多くの皆さまのご応募をお待ちしています。

山本直洋

360度カメラによる作品が増えてきました。パラグライダーと360度撮影は相性が良く、カメラ性能もどんどん良くなっているので、これからさらに増えていくことだと思います。



ハンググライディングシリーズ2019ランキング トップランカーは田中元気・佐野容子

2019年12月31日でハンググライディング、パラグライディングとともに2019年競技シーズンが終わり、まず「ハンググライディングシリーズ」のランキングが次のように確定しました。

[総合]

1位	田中 元気	2814点
2位	砂間 隆司	2738点
3位	大門 浩二	2710点
4位	名草 慧	2625点
5位	鈴木 博司	2600点
6位	板垣 直樹	2596点

[女子]

1位	佐野 容子	1508点
2位	内田 秀子	1234点
3位	櫻井さやか	996点

[世界選手権選抜総合]

1位	田中 元気	218.92点
2位	鈴木 由路	205.65点
3位	大門 浩二	202.81点
4位	砂間 隆司	201.37点
5位	板垣 直樹	199.68点
6位	氏家 良彦	193.44点

[世界選手権選抜女子]

1位	佐野 容子	96.00点
2位	櫻井さやか	68.11点
3位	谷古宇瑞子	63.19点

2020年のハンググライディングシリーズは2月21日～24日の「紀の川スカイグラランプリ2020」からスタート。田中選手をはじめとするパイロットたちの激戦に乞うご期待。

ハンググライディング日本選手権

日程・開催地決定

2020年ハンググライディング日本選手権（クラス1／クラス5）の日程・開催地を理事会が承認、下記のとおり決定しました。

参加選手の皆さん、2020年日本選手権、「日本一のパイロットの座」獲得を目指してご健闘を！

●ハンググライディング日本選手権 in 板敷

3月18日（水）～22日（日）

茨城県板敷ライトエリア

●ハンググライディング・クラスV日本選手権 in 足尾

3月27日（金）～29日（日）

茨城県足尾山ハンゲエリア

学連ニュース

日本学生フライヤー連盟理事長の墨です。年度代わりの時期が近づき、学連も世代交代の準備に追われています。残りの任期も次世代につなげるために、学連役員一同、精進いたします。

■フライトコンテスト、試験的実施

2019年10月から、日々のフライトを競い合う「学生フライトコンテスト」を大幅にリニューアルし、試験的に開催しております。部門はアウトアンドリターン、デュレーション、(TOからの)獲得高度の3部門です。フライトログを提出すると記録が反映されます。みなさまの積極的な参加をお待ちしております。(jsff.org/contest)

■PINK CUP

2019年10月19日から2日間、山形県十分一山エリアにてPINK CUPが開催されました。関東学連主催で行われ、HG、PG、学生、社会人関係なく出場できるのが大きな魅力の大会です。選

手は学生51人、社会人22人の参加となりました。1日目は天候不良のため、競技キャンセル。2日目も悪天候の予報でしたが、サーマルブローにより一部のP証以上の選手がフライトできました。しかし、過半数の選手がフライトできず、競技不成立。

大会は不成立でしたが、レセプションなどを通じてスタッフも含め、参加者同士で交流を深められたと思います。

■学生パラグライダー新人戦

2019年11月16日から2日間、同じく十分一山エリアにて学生パラグライダーの新人戦が開催されました。東北学連主催で行われ、競技はTO精度とターゲットの複合点で順位を決めるものです。1日目は風が強くなる予報が出ていたので、競技を早めにスタート。昼前に競技を2ラウンド成立させることができました。午後は風が強まりながらも、引率の上級生はフリーフライ

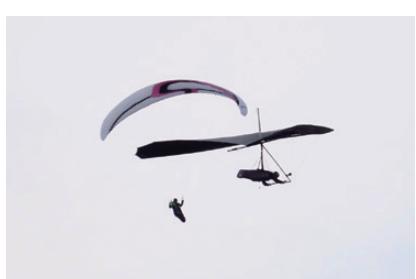


PG新人戦。期待の新人が勢揃いした。

トを楽しむことができました。レセプションでは、エリア対抗で出し物を披露する「裏新人戦」が開かれ、交流の場として大盛況に終りました。2日目は朝から強風でグランドハンドリングも難しい条件。競技はキャンセルになりましたが、毎年大会の開催を引き受けていただいているエリアへのお礼として、エリアの清掃を行いました。

優勝は中村凪選手（早稲田大学）、2位に長井瑛都選手（東京工業大学）、3位に高久彩選手（津田塾大学）という結果で終りました。

最後に、鳥取県靈石山でのハンググライダーの事故について、同じ大学生の事故ということもあり動搖を隠せません。学生連盟として事故の周知、安全講習会を開催するなど対策を講じる予定です。このような悲劇を二度と繰り返さないために、自己のフライトの見直し、フライヤー同士の安全確認など日々の心がけをお願いいたします。



PINK CUPではHGとPGが同時に競技を。



多くのご協賛に感謝して。PINK CUP選手・役員一同。

JHFからのお知らせ

■チェック5タグを頒布

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施しています。2018年は全国のフライヤー会員の皆さんに「チェック5タグ」をお届けしました（JHFレポート222号に同封）。それぞれタグを活用し、プレフライトチェックの徹底に役立てておられることと思います。

このタグをご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。

JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXにてご連絡ください。

今後も「チェック5タグ」を装着し、フライトの基本中の基本、プレフライトチェック、クロスチェックを徹底されるようお願いします。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は、JHFウェブサイトの「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」ページより貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力のうえ、メールかFAXでお申し込みください。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

<https://jhf.hangpara.or.jp/>

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート228号

発行日：2020年（令和2年）1月20日

発 行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編 集：JHF事務局

印 刷：株式会社サンライズ



©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお薦め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いします。